

品人 店技

—ファイル12—

寺田染工場

横浜市清川町2-6
TEL.32-0416
FAX.32-7986

【創業】明治38年



プロフィール

てらた しげたか
寺田 重隆

昭和14年1月23日生まれ
趣味：将棋、グランドゴルフ

今から三〇〇年ほど前、横浜市は染色業が盛んだったらしく、「横浜市史」にも「横手あい染」について書かれてありました。今回はそのルーツを探るべく、現在も伝統の技を守り、新しい染物にも取り組んでいらっしゃる寺田染工場さんにお邪魔いたしました。染物っていいですね〜！

ピンポイント！
玄関には「チャイム」を何回も押して下さい」と書かれております。なるほど奥の二階で作業中は手が離せませんからね。でもインターホンですぐに返事があり、ホッ！
今日はよろしくお願ひします。

こちらこそ、お役に立てるかどつか…。今日は朝からかなり緊張しています。晩酌が入れば結構喋るんだけど…。

奥さんにもお付き合いいただいで一緒に取材開始です。

最初に、旧横手市内には現在何件の染物屋さんがあるんでしょうか。

現在看板を出している事業所は、三軒ですね。

昔は六十軒くらい染物屋さんがあったんですよですが…。

六十軒という数までは分らないです。たぶんその頃の横手

なかつたんですよ。(笑い)
浜松で染物の仕事をしていた叔父から教わったり、後はほとんど独学です。
私達は素人でも分からないので教えて欲しいんですが、藍染は一回であのような色が出るんですか。

いいえ！色の濃さにもよりますが、一回だけではなかなか良い色が出ないため、皆さんが目にする「藍染」というものの色を出すには、三十回くらい染めなければいけませんよ。

かなり手間隙が掛かるんですね！でも、それだから良い色に仕上がるとはですね。(納得！)



▲型づくりはずいぶん細かい作業ですね

でも、藍染も戦後はだんだん需要が減ってきたので、名入れの仕事を中心にやるようになりまし。記念品用の名入れの手ぬぐいとか、学校の名入り横断幕とか、旗とか、色々ありますよ。名入れの商品を染める時は型を作ってから染めることとなります。

型も自分で作られるんですね。

都会へ行けば型だけを作る専門家がいますが、私は自分でやりませんけどね。
でも、お土産用やお使い物用にと言って、結構凝った図案を持つてくるお客さんもいますよ。今までの型はほとんど取つてあるので見てみませんか。



▲製作途中の幟(のほり)が完成間近!

一同作業場へ移動！
話だけではなかなか技法が理解できなかった素人のスタッフも、実物の型を見せてもらい少しづつ理解してきました…。
作業場には丁度製作途中の神社奉納用の幟(のほり)も干してあり、大きさや形も様々な型が、所狭しと置かれてあります。
「簡単なものなんてとんでもない。かなり凝っています！」

このようにして染めるんですね。

まず専用の紙に字や絵を書いて、染めたくない部分をカッターで切り取り、アイロンで専用の網に貼り付けて型を作ります。その型を布に当てがい、のりを塗つたところだけ色が付かないんです。

この筆字は京都のお坊さんが書いたものです。字がとても気に入って、色紙に書いた字をコピーして作つたんです。

筆のかすれた感じも、流れる感じも出ていますね。「風」という字は本当に風が吹いているような感じで…。
はー。あまりのきめ細かさに溜め息のスタッフ。



▲今まで作った型には思い入れが…。

注文はどんなところから多く来ますか？

秋田県内だけでなく、東北各地から注文があります。

手ぬぐいを取り扱っているところは、県内では三軒しかないんですよ。そのうち二軒が横手回ですけれどね…。

作業場を見学中、完成された旗や半纏を発見したスタッフ。

旗の耳のところは奥さんが縫われるんですね。

(奥さん)そうですね。半纏も私が縫います。染めるだけで完成ではないですからね。すぐに使える状態でお客様にお渡ししたい…。

この辺清川町はやっぱり川があったから、染物屋さんがたくさん集まっていたんですね。随分歴史が古いようですが、創業してから何年くらいになるんですか。

祖父の話では、江戸時代の頃から先祖は染物をやっていたようです。でも火事や災害などに遭い、過去帳も何も無くなってしまつて、はっきりは分からないのですが、祖父の代からでは、八十年以上になりますね。

ご主人はどこか染物の修行にいかれましたか。

修行に出たかつたんですが、「外に出せば戻つてこなくなる！」と父親に言われ、家族、親戚会議の結果、修行には出してもらえ

なるほどそうですね！ご主人が染め専門で、染め上がったものを奥さんが縫う。まさに二人三脚で商品が出来上がるんですね。

何でもやらないとお客さんがいなくなつてしまつしね(笑い)。手ぬぐいは何日くらいで完成しますか。

時期的なものもありますが、まず二〜三週間あれば出来ます。たいてい行事の前に注文が来るので、納期に間に合わないというにもならないですね。手ぬぐいはうちの目玉商品なので、その辺は特に気をつけて作っています。



▲型の良し悪しが、仕上がりを左右します

今まで染物の仕事をされてきて、昔と違って難儀になつてきたところはありますか。

藍染を知り尽くしたご主人が今後の目標を「藍染」と語る！藍染は奥が深いんですね。是非今度寺田さんの染めた「藍染」を見させてください。

ありがとうございました。